

デュアルタイプ膜厚計 LZ-373

Kett



取扱説明書

お買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

安全上のご注意

膜厚計は、安全のための注意事項を守らないと、負傷や物的損害などの事故が発生することがあります。
製品の安全性については十分に配慮していますが、この説明書の注意をよく読んで正しくお使いください。

■安全のための注意事項をお守りください。

取扱説明書に記載の注意事項をよくお読みください。

■故障した場合は使用しないでください。

故障および不具合が生じた場合は、必ずお買い求めの販売店、または弊社東京営業部、支店、各営業所にご相談ください。

■警告表示の意味

取扱説明書および製品には、誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐため、次のようなマーク表示をしています。
マークの意味は次のとおりです。

	お願い	この表示は、本器を安全に使うためにぜひ理解していただきたいことがらを示しています。
---	------------	---

目 次

1. 測定原理と特長	4
2. 各部の名称	6
3. 表示部と本体キーの説明	8
4. 仕 様	9
5. 測定準備	10
6. 測定方法	11
7. 各種設定	12
8. 調整 (キャリブレーション)	24
9. 電池の交換	31
10. データ出力	32
11. 故障かな? と思ったら	33
12. 測定・取り扱い上の注意	34

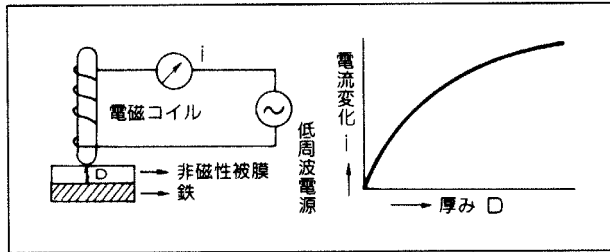
1. 測定原理と特長

〈測定原理〉

● 電磁式

(磁性金属上の非磁性被膜の測定)

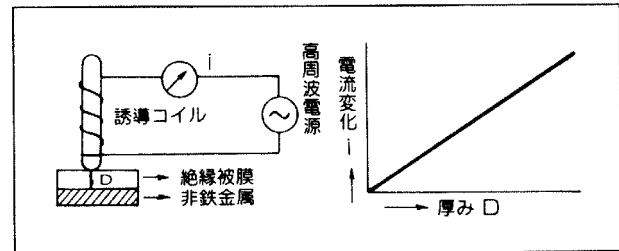
交流電磁石を鉄(磁性金属)に接近させると、接近距離によって、コイルを貫く磁束数が変化し、そのためコイルの両端にかかる電圧が変化します。この電圧変化を電流値から読み取り、膜厚に換算します。



● 渦電流式

(非磁性金属上の絶縁被膜の測定)

一定の高周波電流を流したコイルを金属に近づけると、金属表面上に渦電流が生じます。この渦電流はコイルと金属面との距離に応じて変化し、そのためコイルの両端にかかる電圧も変化します。この変化を電流値から読み取り、膜厚に換算します。



〈特 長〉

- デュアルタイプです。

電磁式と渦電流式の両測定機能を備えたポケットサイズの膜厚計です。

- 膜厚計として十分な機能を装備しています。

自動電源ON/OFF機能、上下限設定、統計計算等16種類の各種設定が可能です。

- アプリケーションメモリ(検量線メモリ)機能を採用しました。

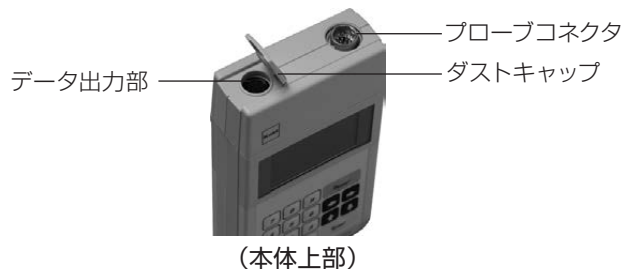
電磁式・渦電流式各50種、計100本までの調整済みのアプリケーション(検量線)を記憶していますから、同一測定であれば2度目からは面倒な調整なしに測定ができます。この記憶は電源を切っても消えません。

測定対象の適用

器種	LZ-373																					
測定被膜	塗	プ	ラ	樹	ゴ	エ	ライ	亜	ク	錫	銅	アルミニウム	その他	塗	アル	(陽極酸化被膜)	ゴ	プ	エ	ラ	樹	その他
	装	ラスチック	ッカー	脂	ム	ナメル	ニング	鉛	ローム					マイト	ム		ラスチック	ナメル	ッカー	脂		
素地	鉄・鋼													アルミニウム・銅・真ちゅう等								

2. 各部の名称

<本 体>



<プローブ>



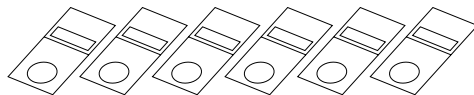
<付属品>



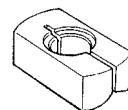
鉄素地 (FE-373)



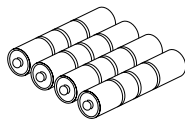
アルミ素地 (NFE-373)



標準板 (6枚セット)



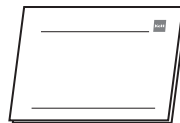
プローブアダプタ



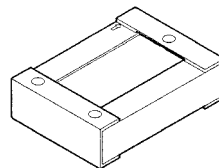
電池 1.5V (単3アルカリ) × 4



キャリングケース



取扱説明書

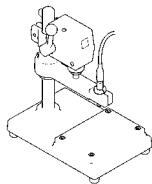


標準板ケース

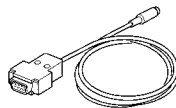
<オプション>



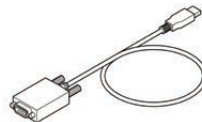
標準板
(付属品以外の厚さ)



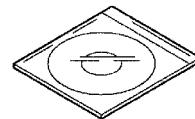
測定スタンド
LW-990



パソコンケーブル
VZC53



RS-232C-USB
変換ケーブル



データ管理ソフト
「データロガーソフト LDL-03」

3. 表示部と本体キーの説明



* 各パターンの機能や意味については、(→P.)で示したページをご参照ください

操作キー	機 能
電源キー 	電源のON/OFFに使用します。
スクロールキー 	目的の項目に移動するときに使用します。

操作キー	機 能
エンターキー 	目的の項目や数値を確定するときに使用します。
テンキー 	数値の入力に使用します。
デリートキー 	入力された数値を削除するときに使用します。

4. 仕 様

測 定 方 式	電磁誘導式	渦電流式
プ ロ ー プ 型 式	LEP-J(Fe)	LHP-J(NFe)
測 定 対 象	磁性金属(鉄・鋼)上の非磁性被膜	非磁性(非鉄)金属上の絶縁被膜
測 定 範 囲	0～2500 μ mまたは99.0mils	0～1200 μ mまたは47.0mils
測 定 精 度	50 μ m未満： $\pm 1\mu$ m、50 μ m以上1000 μ m未満： $\pm 2\%$ 、1000 μ m以上： $\pm 3\%$	
分 解 能	100 μ m未満0.1 μ m、100 μ m以上1 μ m	
データメモリ数	約39,000点	
アプリケーションメモリ	検量線メモリ 電磁式・渦電流式各50本 計100本	
表 示 方 法	デジタル(バックライト付LCD、表示最小桁0.1 μ m)	
外 部 出 力	PC(USBまたはRS-232C)	
電 源	電池1.5V(単3アルカリ)×4	
消 費 電 力	80mW(バックライト非点灯時)	
電 池 寿 命	100時間(バックライト非点灯時、連続使用)	
使用環境温度	0～40℃	
付 加 機 能	各種設定16種	
寸 法 ・ 質 量	本体：75(W)×145(D)×31(H) mm、0.34Kg	
付 属 品	鉄素地(FE-373)アルミ素地(NFE-373)、標準板セット、プロープアダプタ、キャリングケース、	
	電池1.5V(単3アルカリ)×4、取扱説明書	
オ プ シ ョ ン	標準板(付属品以外の厚さ)、測定スタンドLW-990	
	パソコンケーブルVZC53、RS-232C-USB変換ケーブル、データ管理ソフト「データロガーソフト LDL-03」	

● 製品改良のため、仕様や外観の一部を予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

5. 測定準備

(1) 電池のセット

本体裏の電池ボックスをスライドさせて開けます。
電池（単3アルカリ）4本を、⊕、⊖ の方向を正しく合わせてセットします。

(2) プローブの選択とセット

プローブには電磁式と渦電流式の2種類があります。
測定するものに合わせて選択し、本体にセットします。

*プローブのセットは、電源OFFの状態で行ってください。

電磁式：磁性金属上の非磁性被膜の測定

⇒ケーブル色が黒のプローブ(LEP-J)を使用

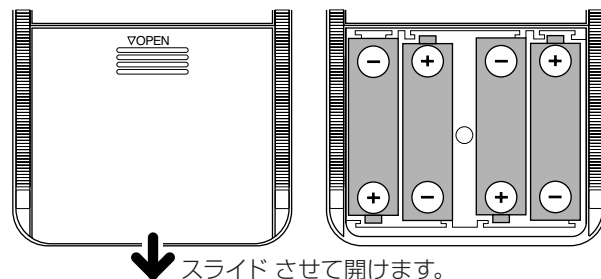
渦電流式：非磁性金属上の絶縁被膜の測定

⇒ケーブル色がグレーのプローブ(LHP-J)を使用

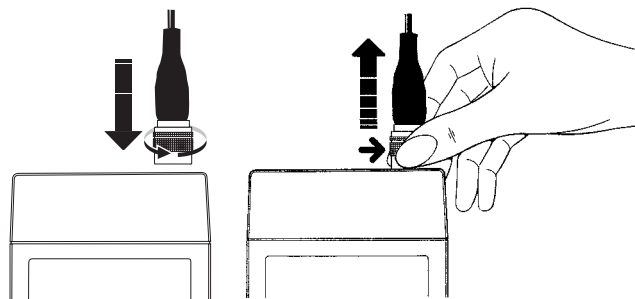
〈プローブの取り付け方と取り外し方〉

- **取り付け** プローブコネクタのリングを、軽く押しつけながら回します。本体のガイド溝と一致する位置で挿入され、固定されます。
- **取り外し** プローブコネクタのリングを、抜き方向へスライドさせて軽く引き抜きます。

本体の電池のセット



プローブの取り付け・取り外し



6. 測定方法

(1) プローブの選択・取り付け

電源がOFFになっていることを確認し、測定対象の素地の材質に合わせて、LEP-JまたはLHP-Jを取り付けます。(P.10参照)

(2) 電源ON

Power キーを押します。

(3) 調整

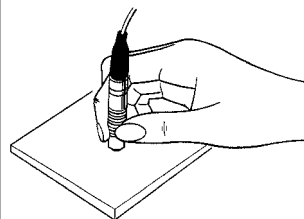
測定対象についてすでに調整が行われているか確認します。**未調整のときは調整操作を行い、検量線（アブリケーション）を登録します。**(P.24参照)

(4) 測定

プローブは、先端チップに一定荷重がかかる「一点接触定圧式」になっています。右の図のように、測定部に近い部分をつまんで、すばやくプローブが測定面に垂直になるように押し下げます。次の測定は、一度プローブ先端を測定面から10mm以上離して行います。

- ◆ パイプ状のものや連続して平面を測定するときは、プローブアダプタを用いると安定した測定ができます。

プローブの使い方



測定面に垂直にすばやく押し当てます。

プローブアダプタの使い方

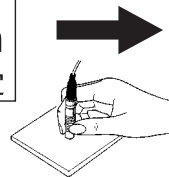
プローブ先端にプローブアダプタを取り付け、ネジをしめて固定します。



表示例(電磁式測定モード)



測定可能状態



測定



測定結果

7. 各種設定

- 本器は **設定** モードから下記の16種類の機能を選択し、各種設定が可能です。



①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
アプリケーション選択	素地補正	データ削除	データメモリ	上下限設定	統計計算	表示選択	日付、時刻	自動ON時間	バックライト明るさ	バックライト時間	単位	データ出力	自動ロット区分	測定方法	メンテナンスモード	戻る
(P.14)	(P.14)	(P.15)	(P.16)	(P.17)	(P.18)	(P.19)	(P.19)	(P.20)	(P.20)	(P.21)	(P.21)	(P.22)	(P.22)	(P.23)	(P.23)	

*各パターンの機能や意味については、(P.)で示したページをご参照ください

● 設定方法

(1) 各種設定を行うには、測定画面で  キーを押してカーソルを **設定** に合わせます。

 キーを押すと各種設定の項目を表示します。

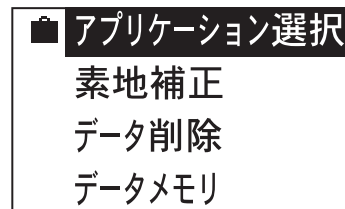


(2)  または  キーを押して、目的の項目に移動させ  キーを押します。
右の画面例では、**アプリケーション選択** が選ばれています。

* 右の画面のように表示できるのは4項目ですが、『P.12 ①～⑰』の順番でスクロールして表示します。

* 各種設定は16項目あります。(⑰戻る は含みません)

* 一度設定したら、次に変更するまで電源を切っても記憶しています。



① アプリケーション選択

アプリケーションナンバー 0～49に電磁式、50～99に渦電流式、計100本のアプリケーション(検量線)を設定できます。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2) **[Del]** キーを押して、表示されているアプリケーションナンバーを消去した後、目的のアプリケーションナンバーをテンキーで入力します。**[Enter]** キーを押すと決定され、測定画面に戻ります。

* 一度設定したアプリケーションナンバーは、次に変更するまで電源を切っても記憶しています。

* Feでは0～49、NFeでは50～99の範囲で選択してください。範囲外の場合エラーを表示します。

■ アプリケーション選択

Fe	25
戻る	

■ アプリケーション選択

Err	55
戻る	

(3) アプリケーションナンバーを変更しない場合は、**[→]** キーを押して**[戻る]**に移動します。

[Enter] キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

■ アプリケーション選択

Fe	25
戻る	

② 素地補正

素地補正は一度登録すれば、以後測定ごとに行なう必要はありません。ただし、測定対象物を変更した場合や、プローブを新しいものと交換した場合などは改めて行なってください。

* 素地とは、表面にメッキや塗装など被膜のかかっていない、測定対象と同じ材料・形状のものを指します。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

■ 空中測定 N=0

測定	
平均	
戻る	Fe25

(2) プローブを空中に向けて**[Enter]** キーを押すと、自動的に7回測定が行われます。

■ 空中測定 N=1

測定	27512
平均	27512
戻る	Fe25

⋮

■ 空中測定 N=7

測定	27513
平均	27512
戻る	[ENT] Fe25

(3) **Enter** キーを押します。

■ 素地測定	N=0
測定	
平均	
戻る	Fe25

(4) あらかじめ用意した素地を
7回測定します。

■ 素地測定	N=1
測定	36495
平均	36495
戻る	Fe25

⋮

■ 素地測定	N=7
測定	36495
平均	36503
戻る	ENT Fe25

(5) **Enter** キーを押すと補正さ
れ、測定画面に戻ります。

③ データ削除

データメモリ内の測定データを削除することができます。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を
行います。

(2) **Del** キーを押して、表示されて
いるデータナンバーを消去し
た後、削除したいデータナン
バーをテンキーで入力します。

Enter キーを押すと削除さ
れ、測定画面に戻ります。

■ データ削除
N=0258
45.8 μm
戻る 全削除

(3) メモリ内の全データを削除す
る場合は **→** キーを押して、
全削除 に移動します。

Enter キーを押すと全削除
され測定画面に戻ります。

(4) データを削除しない場合は
← または **→** キーを押して、
戻る に移動します。

Enter キーを押すと削除され
ずに測定画面に戻ります。

④ データメモリ

測定データをデータメモリに記憶させるか、記憶させないかを設定します。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2) 測定データを記憶させる場合は  または  キーを押して、**データメモリする** を選択します。 キーを押すと設定され、測定画面に戻ります。

 データメモリ
データメモリ する
データメモリ しない
戻る

* 設定後は測定データが内部メモリに記憶されます。

* 統計計算 (P.18参照) を行う場合は、測定を行う前に「データメモリする」に設定してください。測定後に設定したり、「データメモリしない」に設定されていると、測定データの統計計算はできません。

(3)  キーを押すと直近の測定値が削除されます。

 2015/05/31 10:23
Fe μm
 調整 設定

(4) 解除する場合は  または  キーを押して、**データメモリしない** を選択します。

 キーを押すと設定が解除され測定画面に戻ります。

(5) 設定を変更しない場合は  キーで **戻る** に移動し  キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

(6) メモリの残量が足りなくなると右の画面を表示します。メモリ内の全データを削除する場合は、**All Clear** を選択します。

 キーを押すと削除され測定画面に戻ります。

データ出力などを行う場合は **Skip** を選択します。

 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

〈Memory Over〉
All Clear
Skip

〈Memory Over〉
All Clear
Skip

⑤ 上下限設定

上下限の値を記憶させ、測定値が設定値を上回ったとき
や下回ったときにブザーで知らせる機能です。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を
行います。

(2) 上下限の値を設定する場合は
← → キーでカーソルを
上限値または下限値に合わせ
Del キーを押し、入力されて
いる数値を消去してからテン
キー数値を入力します。

→ キーでカーソルをon/off
の選択欄に合わせ、↑ ↓
キーで on にします。

Enter キーを押すと設定さ
れ、測定画面に戻ります。

上下限設定	Fe
上限	0251.0 off
下限	0050.3 off
戻る	μm

上下限設定	Fe
上限	0255 on
下限	0050.3 off
戻る	μm

(3) 上下限の値を解除する場合は
←、→ と ↑、↓ キーを押
して、上下限とも off を選択しま
す。Enter キーを押すと設定
が解除され測定画面に戻ります。

上下限設定	Fe
上限	0255.0 off
下限	0050.3 off
戻る	μm

(4) 設定を変更しない場合は ←

または → キーを押して、

戻る に移動します。

Enter キーを押すと変更さ
れずに測定画面に戻ります。

⑥ 統計計算

最大値・最小値・標準偏差・平均値の表示と計算するデータ範囲を設定できます。

統計計算を行う場合は、測定前に「データメモリする」に設定(P.16参照)してください。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2)   キーでカーソルをデータ範囲の数値に合わせ
 キーを押し、入力されている数値を消去してからテンキーで下限の値を入力します。
 キーで空欄になっている上限値にカーソルを合わせ、テンキーで上限値を入力し範囲を設定します。

(3)  キーを押すと、範囲内のデータ数を表示します。

 統計計算
計算データ番号
0025~0138
戻る

 統計計算
計算データ番号
0025~0138
114Data

(4) 次に  キーを押すと、各統計値を表示します。

もう一度  キーを押すと測定画面または、データ範囲設定画面に戻ります。

 最大	269
最小	247
標準偏差	4.8
平均	258

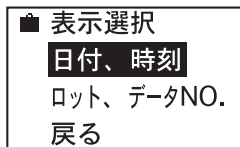
* 自動ロット区分が設定 (P.22参照) されている場合は、統計計算することにロット番号が自動的に増えます。

(5) 統計計算をしない場合は  キーを押して、 に移動します。
 キーを押すと計算されずに測定画面に戻ります。

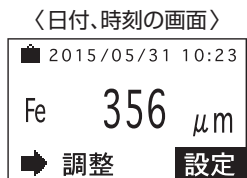
⑦ 表示選択

測定画面の表示は「日付、時刻」または「ロット、データNO.」の2種類から使用方法に合わせて選択できます。

- (1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。



- (2) または キーを押して、「日付、時刻」または「ロット、データNO.」を選択します。
 キーを押すと、設定され測定画面に戻ります。



〈ロット、データNo.の画面〉



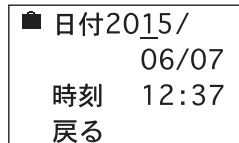
- (3) 設定を変更しない場合は キーを押して、「戻る」に移動します。
 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑧ 日付、時刻

日付、時刻の設定ができます。

- (1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

- (2) 、 または 、 キーを押して、日付、時刻を合わせます。
 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。



- (3) 設定を変更しない場合は または キーを押して、「戻る」に移動します。
 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑨ 自動off時間

測定やキー操作を一定時間、行わないときに自動的に電源をOFFにする時間(5分、10分、20分、自動offしない)を設定できます。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、自動的に電源をOFFにする時間(5分、10分、20分)または、**自動offしない**を選択します。

 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

(3) 設定を変更しない場合は 
または  キーを押し、**戻る**
に移動します。 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

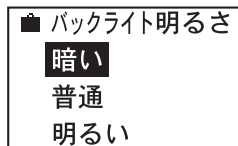


⑩ バックライト明るさ

バックライトの明るさ(非点灯、暗い、普通、明るい)を設定できます。暗い場所で測定やキー操作を行うときに便利です。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、バックライトの明るさを選択します。 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。



* バックライトを設定すると電池の消耗が激しいため、電池寿命が大きく低下します。バックライト時間の設定(P.21参照)をしておくことを、お勧めします。

(3) 設定を変更しない場合は 
キーを押して、**戻る**に移動します。 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑪ バックライト時間

バックライトを点灯させる時間（5秒、10秒、20秒）を設定できます。

* 「バックライト明るさ」で非点灯を設定(P.20参照)している場合は、設定する必要はありません。

(1) P.13（1）、（2）の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、バックライトの点灯時間を選択します。 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

 バックライト時間
5秒
10秒
20秒

(3) 設定を変更しない場合は  キーを押して、 に移動します。 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑫ 単 位

測定値の表示単位(μm 、mils)を設定できます。

(1) P.13（1）、（2）の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、表示単位を選択します。 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

 単位
 μm
mils
戻る

(3) 設定を変更しない場合は  キーを押して、 に移動します。 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑬ データ出力

オプションのケーブルを接続すると、パソコンに測定データを出力できます。

(1) P.13 (1)、(2) の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、出力方式を選択します。
 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

 **データ出力**
測定時出力
測定時出力なし
全て出力

(3) 設定を変更しない場合は  キーを押して、**戻る** に移動します。
 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

測定時出力 ⇒ 測定と同時に外部に測定結果を出力します。
また設定を変更、統計計算を行うとその内容または計算結果を出力します。

測定時出力なし ⇒ 上記出力をしません。

全て出力 ⇒ メモリされている全データや設定の変更、統計計算結果、データの削除を出力します。

⑭ 自動ロット区分

統計計算することによりロット番号を自動的に増やすことができます。

(1) P.13 (1)、(2) の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して選択して、**自動区分する** を選択します。
 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

 **自動ロット区分**
自動区分する
自動区分しない
戻る

* 設定すると統計計算することによりロット番号が自動的に増えます。

(3) 解除する場合は  または  キーを押して、**自動区分しない** を選択します。
 キーを押すと設定が解除され測定画面に戻ります。

(4) 設定を変更しない場合は  キーを押して、**戻る** に移動します。
 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

⑮ 測定方法

測定値を固定表示する「ホールド測定」モード、測定値を連続モニタリング値表示する「連続測定」モードを切り替えます。

(1) P.13 (1)、(2)の操作手順を行います。

(2)  または  キーを押して、測定方法を選択します。
 キーを押すと設定され測定画面に戻ります。

■ 測定方法
ホールド測定
連続測定
戻る

(3) 設定を変更しない場合は  キーを押して、 に移動します。
 キーを押すと変更されずに測定画面に戻ります。

- * 連続測定は、プローブの先端を測定面に押し付けた状態で、表示する測定値が安定したときに読み取ります。そのため、測定値が不安定になりやすい複雑な形状の物を測定するときに比較的安定した測定値が得られ、統計計算などがしやすくなります。
- * 連続測定モードでは、プローブ先端を測定箇所押しつけ、測定値が安定したら  キーを押します。このときの表示値が測定データとして記憶されます。
- * ホールド測定と連続測定では、調整時の測定方法も異なります(P.30参照)ので、ご注意ください。

⑯ メンテナンスモード

修理、調整のときに使用するモードなので通常は使用しません。

(1) 右の画面が表示された場合は
 キーを押して、 に移動します。
 キーを押すと、測定画面に戻ります。

■ メンテナンスモード
パスワード入力

戻る

8. 調整(キャリブレーション)

● 調整(キャリブレーション)の準備

膜厚計で正しい測定値を得るためには、測定前に必ず調整(キャリブレーション)が必要です。ただし、すでに測定のために調整を行った測定対象物と同一のものであれば、調整された検量線を内部メモリが記憶していますので、これを呼び出して測定します。

より精度の高い測定を行うために、測定対象物と同じ材質、形状、厚さの素地を用意します。

このメッキや塗装などの被膜のかかっていない「素地」と「標準板(厚さが明らかになっているサンプル)」を使用する「標準板4点調整法」にて調整を行います。

測定したい被膜の厚さに合わせて、素地と標準板の組み合わせを下の表を参考にして選び、調整を進めていきます。

● 素地と標準板の組み合わせの例

測定範囲	5点調整ポイント				
0~50 μm	素地 (0 μm)	12 μm	25 μm	38 μm	50 μm
50~500 μm	素地 (0 μm)	50 μm	100 μm	300 μm	500 μm
500~2000 μm	素地 (0 μm)	500 μm	1000 μm	1500 μm	2000 μm ^{*1}

*¹ 2000 μm は、500 μm と1500 μm の標準板を重ねてご使用ください。

* 付属の素地は、簡易に本器の精度確認をする場合にご使用ください。

* 付属の標準板は必ずしも表のとおり値ではなく、実測した近似値のものが入っています。

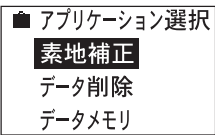
また、付属以外の厚さの標準板はオプションでご用意しています。詳しくはお問い合わせください。

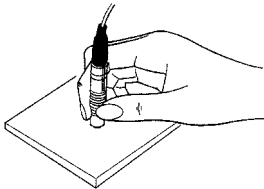
● 調整(キャリブレーション)の手順

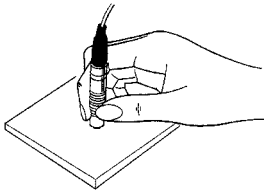
調整操作の最初に、そのアプリケーション(検量線)をどのアプリケーションナンバーに設定するか、P.14「①アプリケーション選択」を参照して設定します。以後の手順は、以下の手順例に従って調整を行います。

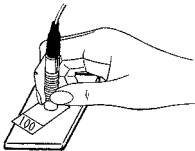
* 一度設定したアプリケーションナンバーは、次に変更するまで電源を切っても記憶しています。

手順例：電磁式測定モード・素地と標準板4枚(100/300/500/700 μ m)にて調整

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
①	 および  または 		まず、素地補正を行います。電源を入れ、測定画面で  キーを押し、 設定 にカーソルを合わせ、 Enter キーを押します。
②			 または  キーを押して、素地補正にカーソルを合わせます。 Enter キーを押し、素地補正の設定画面に入ります。
③	空中測定  		プローブを空中に向けて Enter キーを押すと、自動的に7回測定が行われます。

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
④		 空中測定 N=7 測定 27513 平均 27512 戻る  Fe25  素地測定 N=0 測定 平均 戻る Fe25	 キーを押します。
⑤	素地の測定  素地を7回測定	 素地測定 N=1 測定 36495 平均 36495 戻る Fe25 ⋮  素地測定 N=7 測定 36495 平均 36503 戻る  Fe25	あらかじめ用意していた素地を7回測定します。
⑥		 2015/05/31 10:25 Fe μm  調整  設定	 キーを押すと、初期画面に戻ります。

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
⑦	← または →	2015/05/31 10:25 Fe μm → 調整 設定	← または → キーを押して、 調整 に合わせます。 * 表示部は前回の測定モード「Fe」または「NFe」を表示します。
⑧	Enter	標準板0 N=0 測定 平均 戻る	Enter キーを押すと、調整の表示になります。
⑨	素地の測定  素地を4~5回測定	1 標準板0 N=1 測定 0.1 平均 0.0 戻る 2 標準板0 N=2 測定 0.1 平均 0.0 戻る ... 5 標準板0 N=5 測定 0.1 平均 0.0 戻る	何も被膜のかかっていない素地を4~5回測定します。 測定のたびにブザーが鳴り測定値を表示します。 ● 電磁式測定モードは、鉄素地 (Fe)、渦電流式モードは、非鉄金属素地(NFe)を用います。 ● 素材によっては左の表示例(ゼロに近い測定値)とは大きく異なった測定値を表示することがありますが、手順⑩⑪によって設定値にセットされますので、そのまま操作を続けます。

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
⑩	Enter および Del 、テンキー	■ 標準板0 0.0 μm 戻る	Enter キーを押し、素地の被膜の厚さ(0.0 μm)と表示されていることを確認します。素地の被膜の厚さを変更したい場合は、 Del キーで数値を消去し、テンキーで素地の被膜の厚さを入力します。
⑪	Enter	■ 標準板1 N=0 測定 平均 戻る	Enter キーを押すと素地が設定され、標準板0→標準板1の表示に変わりますので、標準板による測定に移ります。 * 手順⑨～⑪の操作を行っている途中に表示部の「戻る」を選択し、 Enter キーを押した場合は、素地の調整が設定されません。
⑫	標準板100μmの測定  素地上に標準板を置き、 4～5回測定	1 ■ 標準板1 N=1 測定 101 平均 101 戻る 2 ■ 標準板1 N=2 測定 103 平均 102 戻る ⋮ 5 ■ 標準板1 N=5 測定 101 平均 102 戻る	素地の上に標準板(プラスチック板100μm)のをせ、4～5回測定します。 ● 素材によっては使用した標準板の厚さとはとは大きく異なった測定値を表示することがありますが、手順⑬⑭によって設定値にセットされますので、そのまま操作を続けます。 ● 標準板による調整は薄い順に行ってください。

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
⑬	Enter および Del 、テンキー	■ 標準板 1 3000 μm 戻る	Enter キーを押します。 Del キーで数値を消去し、テンキーで標準板の厚さ(100 μ m)を入力します。
⑭	Enter	■ 標準板 2 N=0 測定 平均 戻る	Enter キーを押すと、標準板(100 μ m)の設定がされ、標準板1→標準板2の表示に変わります。
⑮	手順 ⑫ ⑬ ⑭ の繰り返し 標準板(300μm)の 測定・設定 ⋮ 標準板(500μm)の 測定・設定 ⋮ 標準板(700μm)の 測定・設定	■ 標準板 2 N=0 測定 平均 戻る	2枚目の標準板(300 μ m)による調整に移ります。標準板2の表示になっていることを確認して、手順⑫⑬⑭を繰り返します。
		■ 標準板 3 N=0 測定 平均 戻る	3枚目の標準板(500 μ m)による調整に移ります。標準板3の表示になっていることを確認して、手順⑫⑬⑭を繰り返します。
		■ 標準板 4 N=0 測定 平均 戻る	4枚目の標準板(700 μ m)による調整に移ります。標準板4の表示になっていることを確認して、手順⑫⑬⑭を繰り返します。

- 4点（素地と標準板3枚）以下で調整する場合は、必要な枚数だけ標準板による調整を行い手順⑭の後、もう一度

Enter

 キーを押します。

手順	操 作	表 示 部	操作の解説
⑬	Enter		Enter キーを押すと設定され、最初の表示に戻ります。 * 手順⑫～⑬の操作を行っている途中に表示部の 戻る を選択し Enter キーを押した場合は、調整が無効となります。

- 素地・標準板による調整で4～5回測定をするのは平均値をとるための操作です。
- 連続測定モード(P.23参照)時での調整では、手順⑤⑨⑫において、プローブ先端を測定面に押し付け、測定値が安定したら **Enter** キーを押します。このときの表示値が調整データとして記憶されます。
- 表示部に直近の測定値が表示されている場合は、**Del** キーで削除できます。
- 表示部に **戻る** が表示されている場合は、手順⑦の表示に戻ることができます。 **→** キーを押して **戻る** を選択し **Enter** キーを押します。その場合は調整が無効となります。

9. 電池の交換

● バッテリーアラーム

電池が消耗してくると、表示部にバッテリーアラーム「」を表示します。

P.10『(1) 電池のセット』を参考にして、ただちに新しい電池1.5V(単3アルカリ) 4本と交換してください。

10. データ出力

本器は、パソコンに接続することによって、測定値や統計計算結果などのデータを出力することができます。

● データ出力仕様

形式 : RS-232C
 専用変換器でUSBに変換可能
 出力先対象機器 : Windows PC
 (RS-232Cは専用ケーブルVZC53、
 USBは専用ケーブルVZC53 + 専用
 変換器による)

転送速度 : 115200bps
 データビット長 : 8ビット
 パリティチェック : なし
 制御 : ハードウェア
 信号レベル : $\pm 5.4\text{V}$

● データ出力例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
アスキーコード	0x2A	0x4C	0x4F	0x54	0x20	0x30	0x0D	0x0A													
キャラクタ	*	L	O	T		O	CR	LF													
アスキーコード	0x2A	0x44	0x41	0x54	0x45	0x20	0x32	0x30	0x31	0x32	0x2F	0x30	0x35	0x2F	0x33	0x31	0x0D	0x0A			
キャラクタ	*	D	A	T	E		2	O	1	5	/	O	5	/	3	1	CR	LF			
アスキーコード	0x2A	0x55	0x2E	0x4C	0x49	0x4D	0x20	0x20	0x20	0x39	0x38	0x36	0x20	0x20	0x20	0x20	0x75	0x6D	0x0D	0x0A	
キャラクタ	*	U	.	L	I	M				9	8	6					μ	m	CR	LF	
アスキーコード	0x20	0x4E	0x3D	0x30	0x30	0x31	0x39	0x39	0x20	0x20	0x20	0x32	0x35	0x2E	0x30	0x20	0x20	0x75	0x6D	0x0D	0x0A
キャラクタ		N	=	O	O	1	9	9				2	5	.	O			μ	m	CR	LF

*LOT 0

*DATE 2015/05/31

*U.LIM 986 μm

N=00199 25.0 μm

1桁は2バイトからなり、内容はアスキーコード表に従う。

11. 故障かな?と思ったら

チェック項目	確 認	処理方法
電源	電池は正しくセットされていますか?	● 本体裏面にある電池ボックスを開けて、確認してください。 (⇒P.10「電池のセット」)
	電池が消耗していませんか?	● 消耗している場合は、単3アルカリ電池を4本とも新しいものと交換してください。(⇒P.31「電池の交換」、⇒P.10「電池のセット」)
プローブの選択	プローブは正しく選択されていますか?	● 測定対象物に合ったプローブを選択しているかどうか確認してください。(⇒P.10「プローブの選択とセット」)
プローブのセット	コネクタが変形していませんか? コネクタが汚れていませんか?	● コネクタが変形している場合は、新しいものと交換します。 ● コネクタ部分にゴミが付着していたら、柔らかい布でベンジン、アルコールなどを使ってきれいにします。
プローブの使い方	プローブは正しく使われていますか?	● 測定の際、プローブの先端部がきちんと測定面に接触するようにして測定します。(⇒P.11「プローブの使い方」)
症 状	状 態	処理方法
測定値が固定されない	連続測定に設定されています。	● P.23の「⑬測定方法」を参照し、ホールド測定に設定してください。
E1が表示される	プローブが取り付けられていません。	● プローブを取り付けてください。(⇒P.10「プローブの選択とセット」)
E2が表示される	本体に対応していないプローブが取り付けられています。	● 正しいプローブを取り付けてください。(⇒P.10「プローブの選択とセット」)
Err-----が表示される	測定値が表示可能な範囲を外れています。	● 測定範囲内でご使用ください。(⇒P.9「測定範囲」)

12. 測定・取り扱い上の注意

(1) 測定対象の素材の確認をしてください。

測定対象が磁性体上の非磁性被膜のときは、LEP-J (電磁式プローブ：黒) を使用し、非磁性金属上の絶縁被膜の測定にはLHP-J(渦電流式プローブ：グレー)を使います。
測定前に測定対象の素材を必ず確認して、正しいプローブを選択します。



(2) プローブは傷つけないように扱ってください。

プローブ先端のチップを傷つけたり、汚れを付着させたりすると、正確な測定ができません。
プローブを測定面に叩きつけたり、押しつけたまま横にずらしたりしないでください。
また、測定後はプローブ先端を柔らかな布を使ってベンジン、アルコールなどで清掃してください。



(3) 標準板は大切に扱ってください。

標準板は、精密に厚さが測られています。傷ついたり折れ曲ったりしたものを使って調整すると、正確な測定ができません。特に、最も薄い10 μ mの標準板の消耗にご注意ください。
ご使用の過程で、標準板が傷んだ場合は、本器をご購入いただいた販売店にその標準板の厚さを指定して、新しいものをお求めください。その際、新しい標準板の厚さが旧標準板と若干異なる場合がありますが、調整での不都合はありません。

(4) 1年に1回の定期点検をお勧めします。

測定精度を持続するために、少なくとも年に1回の点検が必要と考えられます。
点検は、本器をお求めの販売店にお申し付けください。

製品の保証とアフターサービス

■ 保証書

本製品には保証書が付属しております。保証書は当社がお客さまに、記載する保証期間内において記載する条件内での無償サービスをお約束するものです。記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

■ 検査合格証

当社製造の全器に対して、当社規定の検査を実施しております。検査に合格した器体にのみ検査合格証を発行し、販売しております。本器に付属されていることをご確認ください。

■ 損害に対する責任

本製品(内蔵するソフトウェア、データを含む)の使用、または使用不可能により、お客さまに生じた損害(利益損失、物的損失、業務停止、情報損失など、あらゆる有形無形の損失)について、当社は一切の責任を負わないものとします。

■ 定期点検

本製品の性能を確認し維持するために、定期的な点検を受けられることを推奨いたします。製品の使用頻度によりますが、年1回程度を目安とすると良いでしょう。点検は本製品をお求めになった販売店、または当社へお問い合わせください。

■ 修理

動作に不具合が生じた際は、電源、入出力の接続、本書記載の操作・関連事項を再度お確かめください。それでもなお改善されないときは修理のご案内をいたしますので、本製品をお求めになった販売店、または当社へご連絡ください。

■ 校正証明書

当社の製品はISO9001品質マネジメントシステムに準拠し製造されております。お客さまのご要望により、校正証明書の発行が可能です。ただし、製品の種類、状態によっては不可能な場合があります。本製品の校正証明書発行については、お求めになった販売店、または当社へお問い合わせください。

Kett

株式会社ケット科学研究所

✉ sales@kett.co.jp 🌐 <http://www.kett.co.jp/>

東京本社 〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1
☎ 03-3776-1111 📠 03-3772-3001

大阪支店 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島4-4-10
☎ 06-6323-4581 📠 06-6323-4585

札幌営業所 〒063-0841 札幌市西区八軒一条西3-1-1
☎ 011-611-9441 📠 011-631-9866

仙台営業所 〒980-0802 仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル
☎ 022-215-6806 📠 022-215-6809

名古屋営業所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-6-18 伊原ビル
☎ 052-551-2629 📠 052-561-5677

九州営業所 〒841-0035 佐賀県鳥栖市東町1-1020-2
☎ 0942-84-9011 📠 0942-84-9012

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを固く禁じます。
- 本書の内容につきましては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されている製品および付属品の外観・画面等は、実際と異なる場合がありますが、操作・機能には影響ありません。
- 本書の内容につきましては、万全を期して作成しておりますが、ご不明点や誤り、記載漏れ等お気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書を運用した結果の影響につきましては、上項に関わらず、責任を負いかねますのでご了承ください。